

<短報>

最近沖縄で目撃及び保護された興味深い鳥類

嵩原建二

(沖縄県立博物館)

The Interesting Birds that were Observed and Given Medical Care Recently in the OKINAWA Islands (1993-1994).

Kenji TAKEHARA

(Okinawa Prefectural Museum)

はじめに

1993年の秋季から1994年の冬季・春季にかけて、県内各地で数少ないまれな冬鳥や迷鳥がしばしば目撲されている。また、県立博物館に持ち込まれる傷病鳥の中にもいくつかの記録的に興味深い鳥類が含まれている。

筆者はこうした鳥類を目撃及び保護する機会があり、また沖縄野鳥研究会や沖縄野鳥の会会員等によって野鳥情報や傷病鳥の記録が寄せられた中で、最近の沖縄における鳥類の記録としては興味深いと考えられる種を抜粋して、ここにまとめて報告する。なお、本報告における鳥類の配列や学名の扱いについては、日本鳥学会(1974)にしたがった。

本報告をまとめるにあたり、財団法人沖縄こどもの国の比嘉源和氏、金城輝雄氏、瀬嵩政志氏、福山悦子氏の各氏は鳥類の保護飼育や治療に直接あたり、また貴重な鳥類情報を提供していただいたので感謝申し上げる。また、日本鳥類保護連盟の柳澤紀夫氏、日本野鳥の会八重山支部の崎山陽一郎氏、沖縄野鳥の会の吉里伸氏と山城正邦氏、沖縄野鳥研究会の比嘉邦昭氏と大城亀信氏、沖縄昆虫同好会の佐藤文保氏、さらに林中拓也氏、又吉良雄氏、伊良波彌氏には鳥類情報を提供していただいた。また沖縄県立博物館の久貝勝盛氏、瀬名波任氏には調査に協力していただき、貴重な助言をいただいた。ここに記して感謝申し上げる。

興味深い鳥類の保護及び目撃記録の状況

1、フルマカモメ *Fulmarus glacialis rodgersii* Cassin

〈ミズナギドリ目ミズナギドリ科〉

1993年11月7日17時頃、沖縄島北部の金武町屋嘉において、道路脇にうずくまっているところを林中拓也氏によって保護された。その後沖縄野鳥の会を経由して、筆者よって11月8日に沖縄こどもの国に収容された（写真1）。同園で獣医や飼育担当者によって体力の回復が図られたが、治療のかいもなく1993年12月15日ころ死亡した。

本種の県内での記録は、嵩原（1990）によって、1987年1月4日に沖縄島北部の名護市伊差川で保護された記録が報告されている。したがって、今回の記録は2例目の記録であろう。

本種は千島・アリューシャン・ベーリング海域の寒流域に最も優占する海鳥であり、日本では三陸沖や銚子沖（まれ）まで南下するとされている（世界文化社、1984）。このことから、おそらく今回の記録が日本における最南限の記録であろう。

〈保護時の計測値〉

体長：43cm、尾長：14.2cm、翼長：31.0cm、開翼長：80cm、嘴峰：36.44mm

附蹠：53.41mm、体重：390g

2、コウノトリ *Ciconia ciconia boyciana* Swinhoe

〈コウノトリ目コウノトリ科〉

1993年11月に八重山諸島の与那国島で日本野鳥の会八重山支部の宮良全修氏によって11羽の飛来が確認されている（崎山氏私信）。県内では迷鳥として渡来し、ふつう1羽ないし2羽の確認が多いが、今回の11羽の群れでの渡来は興味深い観察記録と思われる。また、1994年2月には西表島で2羽、石垣島の名蔵、宮良などで4羽が観察されており（崎山氏私信）、合計17羽と例年にならない渡来数の多い年になっている。

本種は近年まで国内で繁殖していたが、1960年頃に絶滅し、現在では中国大陸産の個体がまれに渡来するとされている（世界文化社、1984）。県内にもこうして渡来した個体が、次頁にまとめたように比較的多く記録されている。

3、クロツラヘラサギ *Platalea minor* Temminck & Schlegel

〈コウノトリ目トキ科〉

宮古諸島の池間島で1993年11月27日に1羽確認されている（伊良波氏私信）。別に同年12月7日に那覇市の漫湖においても、比嘉邦昭氏らによって1羽確認されている。その後漫湖に飛來した個体は、1994年2月20日にも目撃されたので、およそ3ヶ月間越冬していたことになる（写真2）。

県内での分布については、日本鳥学会（1974）によると、南部琉球（石垣）とされて

いるが、近年では豊見城村瀬長島や漫湖の記録（沖縄野鳥研究会、1986）があり、また八重山野鳥の会（1983）によって、八重山諸島の石垣島（1976/5/5）、与那国島（1981/11）の記録、久貝ら（1981）によって、宮古島与那覇湾（1979/12/28）などの記録がみられる。

〈コウノトリの県内における目撃記録〉

報告者等	確認時期	確認場所	備考
高良ら（1969）	1967年1月	那覇市漫湖	
八重山野鳥の会（1983）	1974年1月19日	石垣島	
	1975年11月25日（越冬）	石垣島	
	1980年2月24日	与那国島	
	1980年5月	西表島	
	1981年11月29日から1982年3月	小浜島	
久貝ら（1981）	1979年12月28日	宮古諸島伊良部島	
嵩原（1990）	1981年12月19日	名護市三原で池長裕史氏目撃	
沖縄野鳥研究会（1993）	1987年2月15日	豊見城村漫湖	
沖縄野鳥研究会（1986）	1983年10月	糸満市西崎	
嵩原（1993）	1986年2月22日	大宜味村大保川河口	

4、コハクチョウ *Cygnus columbianus jankowskii* Alpheraky

〈ガンカモ目ガンカモ科〉

1993年12月1日の早朝、沖縄島南部の浦添市牧港漁港内において衰弱している個体が又吉良雄氏によって保護された。その後筆者の元に連絡が入り、同個体を受け取った後沖縄市にある「沖縄こどもの国」に保護・収容した。同園では獣医及び飼育係によって体力の回復が図られたが、エサを摂取することなく、3日後に弊死した。

その後間もなく、12月5日早朝に沖縄市にある瑞慶山ダムのダム湖内でコハクチョウ2個体の飛来が確認され（佐藤文保私信）、その日の午後2時頃には、沖縄こどもの国園内にある越来ダムに移動してきていることが確認されている（写真3）。2個体のうち1個体は亜成鳥だったので、おそらく親子であろう。

本種はユーラシア大陸北部で繁殖し、中国南部や日本（本州）で越冬するとされ、日本における越冬地の南限は島根県中海や宍道湖などとなっている（世界文化社、1984）。今回の渡来は、おそらく中国南部に渡る個体が琉球列島側に迷行してきたものと考えられる。

本種の県内におけるこれまでの記録は、1976年12月29日に名護市の柳ダムで観察記

録されている（友利、1977）。その他には1976年12月に石垣島で記録があり（八重山野鳥の会、1983）、また沖縄野鳥研究会（1986）によると伊是名島、北大東島、小浜島などの記録が報告されている。

〈弊死した個体の計測値〉

体長：111cm、尾長：17.8cm、翼長：48.8cm、開翼長：176cm

嘴峰：101.04mm、附蹠：101.35mm、体重：3.5kg（弊死時2.9kg）

5、ツクシガモ *Tadorna tadorna* (Linnaeus)

〈ガンカモ目ガンカモ科〉

1994年1月4日に具志川市塩屋の海岸で10羽渡来していることが、吉里伸氏によって観察されている（写真4）。本種はまれな冬鳥として渡来し、数は1羽から2羽の例が多い。10羽の例は興味深い記録である。なお、1月30日には11羽に増えていることが確認されている（吉里氏私信）。

県内では、八重山諸島の石垣で1975年12月（八重山野鳥の会、1983）、宮古諸島の池間島で1978年1月30日（久貝ら、1981）、沖縄本島では1968年12月から1969年1月30日にかけて那覇市の漫湖（高良ら、1969）、1985年1月に具志川市（沖縄野鳥研究会、1993）、名護市（友利、1977）などの記録がある。

6、オジロワシ *Haliaeetus albicilla albicilla* (Linnaeus)

〈ワシタカ目ワシタカ科〉

1993年12月29日に沖縄本島南部の糸満市報得川で、大城亀信氏によって観察されている。（1994年1月5日付け琉球新報夕刊）。その後もその地域周辺で越冬していることが確認され、1994年2月20日には糸満市西崎の北海岸で目撃された（写真5）。したがって、約2カ月近く同地域で越冬していたことになる。

県内では、古い記録として1884年4月に宮古島（久貝ら、1981）における記録があるが、近年では高良鉄夫ら（1969）によって、1968年1月18日に那覇市漫湖、同年10月29日に糸満の干潟、1969年1月15日に名護、同年2月7日に豊見城（原文は富城）、1962年1月2日に宮古島における観察記録が報告されている。また、これらの報告以外には1978年11月21日に西表島（八重山野鳥の会、1983）、1983年12月16日に与那城村屋慶名において観察記録がある（吉里氏私信）。

7、シベリアオオハシシギ *Limnodromus semipalmatus* (Blyth)

〈チドリ目シギ科〉

1993年9月27日沖縄島北部の宜野座村瀬原で、柳澤紀夫氏によって1羽確認されている（写真6）。

県内での記録は沖縄野鳥研究会（1986）によって、沖縄島中部の北谷町桑江海岸や八

重山諸島での記録がみられるが、県内では数少ない旅鳥及び迷鳥として渡来しているものと思われる。

8、リュウキュウオオコノハズク *Otus bakkamoena pryeri* (Gurney)

〈フクロウ目フクロウ科〉

1994年2月8日に沖縄島中部の北中城村安谷屋において、山城正邦氏によって弊死体が収得され、筆者に届けられた。観察の結果、足指に羽毛が見られないことから本種と判断された。本種は留鳥として県内各地に生息するが、森林地域が減少傾向のある沖縄島中部における記録としては興味深いものがある。

〈計測値〉

体長：27.0cm、尾長：10.56cm、翼長：18.76cm、開翼長：54.0cm

嘴峰：16.29mm、附蹠：43.66mm、体重：200g、備考：足指に羽毛なし。

参考文献

沖縄野鳥研究会. 1986. 沖縄県の野鳥、沖縄野鳥研究会. 265p.

沖縄野鳥研究会. 1993. 改訂沖縄県の野鳥、沖縄出版. 299p.

久貝勝盛・山本晃. 1981. 宮古島群島の鳥類目録、沖縄生物教育研究会誌17：15-30.

沖縄生物教育研究会.

日本鳥学会編. 1974. 日本鳥類目録改訂第5版. 学習研究社. 120p.

八重山野鳥の会. 1983. 八重山地方鳥類目録、p.28-38. 10周年記念誌、八重山野鳥の会.

世界文化社. 1984. 生物大図鑑、鳥類. 世界文化社. 399 p.

友利哲夫. 1977. 哺乳類・鳥類・昆虫類、p. 84-128. 名護市天然記念物調査シリーズ 第1集、名護市動物総合調査報告書、名護市教育委員会.

嵩原建二. 1990. 名護市鳥類目録、p.18-25. 名護やんばるの鳥、名護博物館.

嵩原建二. 1993. 沖縄島北部地域（国頭村・大宜味村・東村）の鳥類、p. 59-62. 特殊鳥類等生息環境調査報告書VI、沖縄県環境保健部自然保護課.

高良鉄夫・黒田長久. 1969. 琉球における未記録種および稀種、山階鳥研報：5-5、115-129.

〈図版〉



写真 1 : フルマカモメ (保護時撮影)
(1993/11/8)



写真 2 : クロツラヘラサギ
(1994/2/20・豊見城村漫湖)

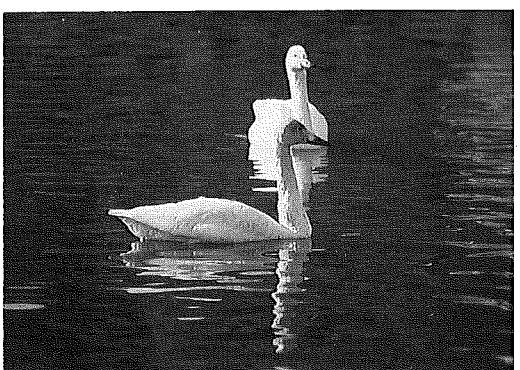


写真 3 : コハクチョウ
(1993/12/6・沖縄こどもの国)



写真 4 : ツクシガモ
(1994/1/4・撮影:吉里伸氏)



写真 5 : オジロワシ
(1994/2/20・糸満市西崎)



写真 6 : シベリアオオハシシギ
(1993/9/27・撮影:柳沢紀夫氏)